

① コンプライアンスとは

1 コンプライアンスの意義

(1) 「我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つ」という防衛省・自衛隊に課せられた任務を達成するためには、我々自身で組織の精強性を維持していく努力が必要であるとともに、国民からの信頼・共感が欠かせません。

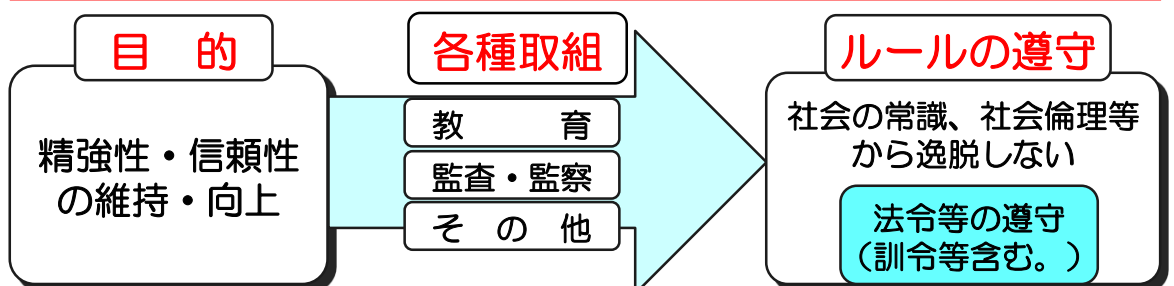
(2) 精強性を維持していくにあたっては防衛力の整備や技能・練度の維持・向上が必要であることは言うまでもありませんが、その前提として、隊員それぞれが高い使命感と倫理観を保持し続けることが必要です。

また、違反行為や不祥事の多い組織では国民からの信頼・共感を得られないことから、違反行為や不祥事の根絶を図り、国民からの信頼を損なわないように努力していかなければなりません。

(3) そのためには、隊員個々が、その任務が国民から負託されたものであることをよく自覚し、職務遂行や私生活のいずれの場面においても、単に法令や訓令・通達等の内部規則（法令等）を遵守するにとどまらず、社会の常識、社会倫理等（社会のルール）に反することなく行動すること、さらには、そのような行動を確保するための各種施策を講ずる取組を行うことが必要です。

(4) このように、防衛省・自衛隊におけるコンプライアンスとは、

- ① 組織の精強性や国民からの信頼性の維持・向上を目的として、
- ② 日々、隊員一人一人が法令等を遵守することや社会の常識、社会倫理等（社会のルール）から逸脱しないよう行動することはもとより、
- ③ そのための教育や監察・監査など各種の取組を行うことを含めた概念です。



1 コンプライアンスについて

① コンプライアンスとは

2 コンプライアンスへの取組の重要性

- (1) 近年、災害派遣、国際協力等の活動が増加し、その任務・役割が拡大・多様化する中、防衛省・自衛隊に対する国民からの期待は増大しています。そして、その期待の大きさだけ、向けられる目線も厳しいものになります。
- (2) このような環境の下、防衛施設庁における官製談合事案、航空自衛隊第1補給処におけるオフィス家具等の事務用品談合事案、陸上自衛隊新多用途ヘリコプター（UH-X）開発事業の企業選定に係る事案、「たちかぜ」における先輩隊員によるいじめ事案、いわゆる日報問題等の度重なる不祥事が発生し、事案によっては、防衛省・自衛隊に対する国民からの信頼・期待が著しく損なわれ、組織としての基盤を揺るがしかねない事態になりました（参照「統計資料」（156ページ））。

現実には、防衛施設庁や航空自衛隊第1補給処は、それぞれの官製談合事案の影響もあり、廃止されています。

- (3) 民間企業においては、各種の不祥事の発生を受け、社会からの信頼性の確保が求められ説明責任が問われる中、経営の健全性の確保等を目的とし、コンプライアンスへの取組が行われています。
- (4) そして、防衛省・自衛隊においても同様に、各種の不祥事が発生すると、社会からの信頼性の確保が求められ説明責任が問われます。

防衛監察の際に部隊等の管理者からは、実任務や訓練等に追われ、コンプライアンス教育の時間を確保できないとの話を聞くことがありますが、ひとたび不祥事が発生すると国民からの信頼を損ない、ひいては任務達成に支障が生じるおそれがあることから、重要な任務を担っている部隊等こそ、コンプライアンスへの取組が重要なのです。

防衛省・自衛隊に対する
国民からの期待の増大

不祥事の発生により国民からの
信頼・期待を失うおそれ

信頼性の維持・向上を図る取組として、
コンプライアンスの啓発・推進は重要